

CONTENTS

● 第15回NAMMビジネスツアー	1~4
● MIDI検定試験実施結果報告	5
● 製品安全・環境委員会 改正RoHSセミナー開催報告/一般社団法人登記完了報告	6
● 著作権・ソフト委員会報告	7
● AMEI会員名簿・第1回通常総会と懇親会開催のお知らせ	8

第15回NAMMビジネスツアー AMEI/MMA会議報告



今年は2012年1月19日から1月22日の開催期間で、2012NAMM SHOWが米カリフォルニア州アナハイム・コンベンションセンターで開催されました。NAMMの発表では、今回の入場登録者数は、95,709人と前年に引き続き、さらに6%の増とこれまでの最高入場者数を上回り過去最大となりました。海外からの入場者（登録数）も前年より15%増となり、11,981人を記録しました。出展社についても、前年に対し1.6%増の1,441社（新規出展社236社）と欧州の債務危機や世界規模の災害があったにもかかわらず、本格的な回復の兆しを感じられるショーとなりました。

特に目を引いたのは、iPadをコントローラーやインターフェイスとして自社の楽器に取り込んだ、iPad内臓型の商品。他社製品をそのまま取り込んで商品化するのは、リスクも大きいのではないかと思います。それ以上にiPadが米国市場でスタンダードになりつつあるという印象を感じることができました。また、各ブースでは有名ミュージシャンによる演奏等が各所で見られ、それを見る為に並ぶアメリカ人の列も去年よりも長く感じられ、本格的な市場の回復への期待を感じさせてくれたショーとなりました。

MIDI規格委員会主催の第15回NAMMビジネスツアーもNAMMショー及びMMA総会の日程に合わせ、1月18日出発～1月24日帰国のスケジュールで、10名の参加協力を得て実施されました。



NAMMビジネスツアー

NAMMビジネスツアーも、今年は10人の参加メンバーを得て開催する事ができました。例年同様、今年も始めてNAMMに参加される市場調査がメインの方々とMIDI規格委員会のメンバーの合同ツアーという目的もスケジュールも各人によって異なるツアーではありますが、参加メンバーは各自搭乗手続きを済ませ、成田空港第1ターミナル南ウィングにあるレストランアピオンにて出発前のミーティングで自己紹介や行動予定の確認をおこない、恒例の記念撮影の後、シンガポール航空SQ012便は1月18日PM6時30分、夕日の成田空港を一路ロサンゼルスへ向け飛び立ちました。



サンタモニカ海岸 (SANTA MONICA PIER)

1月18日午前11時15分、定刻にロサンゼルス空港に到着したものの、相変わらず通関も手荷物検査も大変な行列で、チャーターしたバスに乗り込み今回の最初の目的地サンタモニカへ出発したのは、お昼過ぎでした。サンタモニカは100年以上前から海水浴場として賑わっているところで、木造の栈橋はアメリカ映画ではおなじみの場所です。昼食はトム・ハンクス主演映画「フォレスト・ガンプ」をテーマにしたアメリカン・シーフードレストラン：ババ&ガンブシュリンプへ。日本でもチェーン展開していて、水道橋にもありました。食事後、ここ数年訪問しているロサンゼルスギターセンターへ。ギターセンターは楽器毎にエリアが分かれていて、ゆっくり見る事が出来るので、アメリカの楽器店の雰囲気を十分に感じていただけた事と思います。その後、車はフリーウェイの夕方の渋滞にはまり、ハナハイムのホテルには夜7時過ぎに到着しました。



サンタモニカ ババガンブシュリンプにて昼食



ギターセンター前



ホテルに隣接するイタリアンレストランにて夕食

NAMM Show 2012 Report 1

(ヤマハ株式会社 研究開発センター 加藤 信一)

今回初めてNAMM Showを視察するにあたり、音楽電子事業協会様企画のNAMMツアーに参加させていただきました。海外への渡航自体さほど慣れていない上に、初の海外出張ということで不安がありましたが、成田空港に集合してから現地のホテルに着くまでの間の段取りをととてもしっかりとしてくださっていたので非常に安心でした。また、成田空港に集合してすぐに、一緒にツアーに参加するメンバー間で自己紹介を交わすことが出来たので、飛行機で隣の席になったKORGの方々ともスムーズにコミュニケーションを取ることができ、リラックスした気持ちで出発できました。

アメリカ到着当日には、サンタモニカの海辺のレストランで昼食を食べ、その後ギターセンターを訪問させていただきました。普通にNAMM SHOWを視察した場合、レンタカーを借りない限りは、出張中アナハイム以外の雰囲気に触れることは難しかったと思います（地理的、交通の便的に）。サンタモニカや、ギターセンターとその周辺の街並み、フリーウェイの景色を、渡米初日に体感できたことは、『アメリカに来たんだ』という実感を生み、出張の目的であるNAMM視察への意気込みをさらに高めてくれました。

NAMM Show視察全体の所感として一番大きかったのは、アメリカにおいては、日本と比べて音楽や楽器の演奏が人々にとって“近い”存在なんだということでした。SHOWの規模感はもちろんですが、各展示ブースでの演奏デモの量と質、展示されている楽器を試奏する人たちの多さと演奏力の高さ、会場付近の各ステージの観客の盛り上がりなど、日本での楽器フェアとは雰囲気の異なるものばかりでした。

視察した結果感じた傾向としては、やはり、iPhone/iPad関連製品が非常に多かったことが最も目を引きました。楽器の種類や分野によらず至るところにデモ用のiPhone/iPadが展示されており、完全にトレンドの中心だったのではないかと思います。その中でも、iPhone/iPadを各製品のハードの一部として“組み入れる”ようなタイプの製品が印象的でした。U/Iや信号処理はiPhone/iPadにやらせるんだけど、単にアプリを作って売るのはなく、ちゃんと自社製品をハードとして売ることができるようにする仕組み、戦略を感じました。

さらに、ツアーで御一緒した同業界の他社の方々とフランクに意見交換できる場が持てたことも大きな収穫のひとつだったと思います。SHOW3日目の夜には、夕食後AMEIツアーメンバーの部屋に集まってビールを飲みながら、SHOWの感想やトレンドについて、自社内とは違った方々とお話しをすることが出来、非常に勉強になりました。

初めて行く人間にとっては、安心感と貴重な体験の両方を与えてくれる素晴らしい企画だと思いますので、今後も続けていただけるとうれしいです。

今回は、参加させていただき誠にありがとうございました。

MIDI規格の国際標準化に関するAMEI/MMA会議報告

MIDI規格委員会 副委員長 河口 幸裕

◆MIDI規格の国際標準化

1月20日、MMAとのミーティングに先立ち、MIDI規格国際標準化についてAMEI側の現在の進捗状況及び今後の方針について確認打合せを行いました。オーストラリアメルボルンでのIEC国際会議後、IECテンプレートに沿った形式での提出文書の草案を作成し、MMAへ確認依頼中であり、1月21日のMMAとのミーティングにおいて大きな変更がでなければ、5月の米ダラスにおけるTC100AGM/AGS meeting の一ヶ月前（4月初旬から中旬）には定型フォームの規格文書をAGMへ直接提出する予定である旨の確認を行いました。

1月21日、MMAとのミーティングにおいて、提出文書の草案について先月TSB（Technical Standards Board）にて打ち合わせたが、まだ回答が出ていない旨の報告があり、大きな変更はないが、多少の変更要請はあるかもしれないが、AGMへMMAの最終合意したものを4月中旬には提出する事で合意しました。

◆MMA総会

1月22日MMA総会において、Tom White会長より、新興諸国を含む国際市場におけるMIDI規格の認知度を高めるためにMIDI規格の一部を国際標準化する方針と、ドラフトの作成が進行中である点について報告がなされ、またMIDI規格国際標準化日程について、4月にはIECへ規格文書をAGMへ提出し、5月のIEC AGMダラス会議にはTomWhite会長の出席についても報告されMMAにおいても了承されました。

尚、MMA総会においては、上記報告以外に、HDプロトコルの進捗状況について、AVBについて、MIDIロゴの商標の保護について、Webオーディオについての説明等、TomWhite会長及びTechnical Board Membersより、それぞれ報告がありました。



MMA総会にてスピーチをするTomWhite会長



MMA総会

NAMM Show 2012 Report 2

（ヤマハ株式会社 研究開発センター 須見 康平）

入社二年目の私がNAMM Showのことを初めて知ったのは、昨年行われた職場内でのNAMM2011出張報告会でした。昨年のこのツアーに参加された先輩方が視察の様子や規模の大きさについて報告されていて、その時はまさか自分が行くことになるとは夢にも思っていませんでした。ですが今回、市場調査と若手教育の目的で幸運なことにNAMM視察メンバーとして選ばれ、音楽電子事業協会様企画のツアーに参加させていただくことができました。

まずツアーの初日は、ロサンゼルス到着後あまり時間のない中でしたが、ギターセンターに立ち寄っていただき、アメリカと日本の楽器店の違いを体感することができたのは、非常に良い経験になりました。

二日目からはNAMM Showの視察だったのですが、そのスケールの大きさにまず驚かされました。個人的な印象としては、想像を絶する巨大な楽器店を訪れている感覚で、ワクワクする気持ちを抑えながら各ブースをチェックしていました。

視察を通してまず感じたこととしては、扱っている楽器のカテゴリーごとにブースの雰囲気が大きく違うということでした。例えばアコースティックピアノのみを扱うメーカーは、やはり高級感と威厳を感じさせる上品な雰囲気、人を多く集めるのではなく、ターゲットとしている顧客層を明確にして集客に力を入れていました。一方で、幅広い層から指示を得ているメーカーは、いかに敷居を低くして人を集めるかに注力していたように思います。その中で、メーカーごとに展示の仕方や目玉商品の見せ方に特色が出ており、このトレードショーで注目を集めることの重要性を実感することができました。

また、iOS関連のものが多数出展されていたことも印象的でした。アプリ単体のもの、アプリとハードを組み合わせたもの、さらに操作のためのインターフェースとしてiPhone・iPadを利用するものなど、各メーカーによって用途はそれぞれでしたが、処理能力に優れ、かつ多くの人が既に持っているデバイスを利用して、どう付加価値を追求するか多くのメーカーが注目していました。

出展社数も多く、展示の規模も広大ということもあり、主要なところをまわって情報を集めるのが精一杯でしたが、ツアーメンバーの方々と情報交換する機会を設けていただいたおかげで、一人ではチェックしきれない部分に関しても情報をいただけたのは非常にありがたかったです。ツアーには様々な方面から参加されている方がいらっしやだったので、それぞれ異なる視点からの意見を聞けたことは、特にこのツアーならではのメリットだと思います。

今回のツアーが私にとって初めての海外出張だったのですが、NAMM Showに何度も参加してこられた方々とご一緒できたおかげで、ほとんど戸惑うことなく視察を終えることができました。参加させていただきありがとうございました。

NAMM Show 2012 Report 3

(株式会社コルグ 開発3部 DD開発グループ 斉田 一樹)

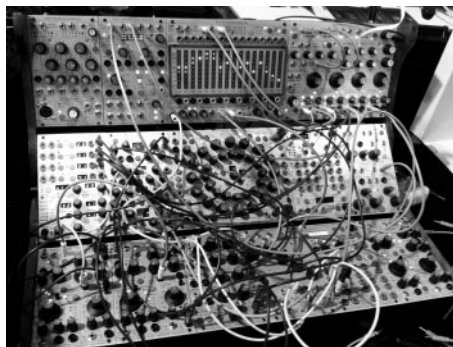
会社の先輩方から色々とお話を聞いていたNAMM。今回AMEIツアーで初参加させていただきました。どんなところだろう？とあれこれと想像しながら当日を迎えました。成田空港でツアー参加者の皆様と集合、現地へ向かいました。到着初日は業務上の都合でツアーに参加できませんでしたが、その後も参加者が集まり、食事をしながらの情報交換をする時間を持てるなど、ツアーならではの経験をする事が出来ました。

私の担当した製品の発表もあり、普段知ることの難しい海外での反応を直接見る事ができたこと、さらに会場で起こっていることがWEB等を通じて世界中に伝わっていく様子を知ることができたことは、今後の業務にとって、また個人的にも大変有意義な体験でした。

今回のNAMM Showでは、iPadやiPhoneなど、iOS向け製品の数が非常に多く出展されていました。純粋なアプリから、iPadを接続して使う楽器タイプのものまで、様々な製品がありました。また、NAMM Show公式のiPhoneアプリもあります。気になるブースの場所を事前にチェックできたり、イベントの情報が分かったりと、非常に便利でした。NAMM Showに行かれる方は、利用すると便利だと思います。他に、アナログシンセサイザーの新製品が数多く発表されていた点も、今回のNAMM Showの特徴的な点だと思います。iOSとアナログ、対極的なテクノロジーかもしれませんが、電子楽器の世界では同じように新製品が生み出されている点が、大変興味深かったです。

ブース内には開発者がいることも多く、どのようなことを考えながら開発をしているのか？今後どのような製品を作るのか？などを意見交換できたことも、開発者として、普段なかなかできない貴重な経験でした。

NAMM Showは電子楽器に限らず、様々な楽器が一堂に会するイベントです。会場はとても大きくて、1日で見まわることとはとてもできません。現地で会場を見るまでは、なぜツアーにNAMM Show視察が4日間もあるのだろう？と思っていました。実際には4日あっても足りない程、大規模でした。参加するにあたって、見たいものはある程度絞って行ったのですが、現地で次々と面白い製品を発見する機会がありました。予想は良い意味で完全に外れました。また、楽器の展示だけでなく、会場内のあちこちでライブイベントが行われていたり、それに飛び入りで参加する人もいたなど、大変活気にあふれていました。それ以外にも、会場にいる人の楽しそうな表情、全体のお祭りのような雰囲気など、現地でしか分からない部分も数多くあります。楽器や音楽の持つ楽しさ、面白さが集まっている場所、それがNAMM Showでした。まだ体験していない方には、ぜひ参加して欲しいツアーです。



NAMM Show 2012 Report 4

(ヤマハ株式会社 サウンドネットワーク事業部 長谷見 健太郎)

初めてNAMMに参加しましたが、見るもののすべてが新鮮で、驚きと感動の連続でした。そんなNAMMを3つのキーワードとともに振り返ります。

「カルチャーショック」

日本の楽器ショーに参加したことがありますが、あまりの違いにショックを受けました。あちこちのブースで次々に行われるライブ、ふらっとブースに立ち寄って一般人と一緒に楽しむプロアーティスト、老人が若者に声をかけて自然に始まるセッション。そこにいる全員が純粋に「音楽」を楽しんでいました。これこそが音楽だよと、原点に立ち返ることができました。

いつか日本でもNAMM Showのような、純粋に音楽を楽しめるようなイベントをやってみたい!!AMEIツアー参加者の方と、そんな話をとても盛り上がりました。まずは会場でお酒を売るところからでしょうか?!

「iPad/iPhone」

ここはAppleの展示会かと思うくらい、iPad/iPhone関連製品が多かった気がします。

iPad/iPhoneにエフェクターやアンプを入れてみたり、ポリフォニックチューナーにしてみたり、ミキサーのUIにしてみたり、さらにはiPad Dockという形で様々な入出力端子を備えているものも見られました。ただ単純にiPad/iPhoneを使えばいいというものではなく、ライブ中の使い勝手などを考慮した製品もあり、一歩踏み込んだ提案が必要になってきた証拠ではないかと感じました。ちなみにNAMMではAndroidという文字は1社を除いて見かけませんでした。

「アコースティック」

NAMMでは、アコースティック楽器の力強さを感じました。展示の割合からして、アコースティックのほうが明らかに多かった気がします。やっぱり音楽はアコースティック楽器!!という人々の意識が見えた気がしました。

それと印象的だったのは、デジタルからアコースティックへのアプローチが多数見られたことでした。

シンセサイザーの新製品には、ほとんど「バーチャルアナログ音源搭載」という文字が書かれていましたし、アコースティックの質感をもたせたデジタルドラムがいくつか提案されていました。これまでとは違った形で、デジタルからアコースティックへのアプローチが興味深かったです。

NAMM参加のついでに、アメリカのエンターテインメント施設の視察も行いました。視察したのは日本でお馴染みのRound 1です。Round 1は日本の企業で、アメリカ進出の一号店がカリフォルニアの郊外にあります。ここは日本と同じような設備を有しており、日本で人気の設備がアメリカ人にどう受け入れられているのかを知る上で、とても参考になりました。日本とは客層も違っており、文化の違いを感じることができました。

今回AMEIツアーに参加して、本当に貴重な体験を得ることができました。今後ともぜひ、このツアーを続けていただければと思います。ありがとうございました。



MIDI検定試験実施結果報告

主催：一般社団法人音楽電子事業協会

協力：日本シンセサイザープログラマー協会

平成23年12月4日（日）に全国29会場にて「第14回MIDI検定3級」「第13回MIDI検定2級1次（筆記）」試験を実施しました。また同日、同一試験問題にて中華人民共和国におきましても「第8回MIDI検定試験3級」が6会場にて実施されました。

MIDI検定2級2次（実技）試験は、平成24年2月18/19日は東京会場、2月25/26日は大阪会場にてWindows及びMacにより実施いたしました。

また3回目となる「MIDI検定1級試験」は、平成24年1月20日～1月30日の期間を課題曲の制作期間として実施されました。

次年度よりのMIDI試験内容の変更（MIDIに加えAudioを試験対象に加える）に伴う新ガイドブック「ミュージッククリエイターハンドブック」は予定通り2月下旬に発売され、それに伴う、検定協力校及び指導者を対象に3月3/4日は東京、3月20/25日は大阪で指導法の伝達講座を実施しました。



全国協力校・協力団体 試験会場

MIDI検定3級及び2級1次試験の実施につきましては、下記の学校、団体に会場提供等のご協力を頂きました

[北海道・東北エリア]

ヤマハミュージック北海道研修センター・札幌琴似工業高等学校・学校法人 日本コンピュータ学園東北電子専門学校

[関東エリア]

代官山音楽院・日本工学院専門学校・学校法人岩崎学園 横浜デジタルアーツ専門学校・国立音楽院・学校法人杉山学園 専門学校横浜ミュージックスクール・岩波セミナー・ヤマハエレクトーンシティ渋谷・アーツカレッジヨコハマ・日本工学院八王子専門学校・日本電子専門学校・音楽学校 メーカー・ハウス・専門学校東京ビジュアルアーツ

[中部・近畿エリア]

学校法人大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ 専門学校・JEUGIA 京都音楽院・コンピューターミュージッククラブ Dee・甲陽音楽学院・専門学校 名古屋ビジュアルアーツ・名古屋文理大学・金沢科学技術専門学校・リュウケイ ミュージック ネット

[中国・四国・九州エリア]

専門学校九州ビジュアルアーツ・原田学園 デジタルアーツ専門学校・Oita Sound Creator 協会・広島工業大学専門学校・広島コンピュータ専門学校・くらしき作陽大学

MIDI 検定試験結果の推移（国内）

級	内 容	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	累計
3 級 試験	実 施 日	第 8 回 H17.12.4	第 9 回 H18.12.3	第 10 回 H19.12.2	第 11 回 H20.12.7	第 12 回 H21.12.6	第 13 回 H22.12.5	第 14 回 H23.12.4	
	受験者数	1469	1275	1051	930	797	760	575	22290
	(内学校)	715	659	526	512	439	385	256	11053
	合格者数	1056	731	729	627	504	465	370	15420
	合 格 率	71.89%	57.33%	69.36%	67.42%	63.24%	61.18%	64.35%	69.18%
2 級 1 次 試験	実 施 日	第 7 回 H17.12.4	第 8 回 H18.12.3	第 9 回 H19.12.2	第 10 回 H20.12.7	第 11 回 H21.12.6	第 12 回 H22.12.5	第 13 回 H23.12.4	
	受験者数	429	308	247	265	172	150	161	5157
	合格者数	189	187	162	187	87	79	109	2508
	合 格 率	44.06%	60.71%	65.59%	70.57%	50.58%	52.67%	67.70%	48.63%
	実 施 日	第 7 回 H18.2.11	第 8 回 H19.2.11	第 9 回 H20.2.16	第 10 回 H21.2.14-3.1	第 11 回 H22.2.20-2.28	第 12 回 H23.2.19-2.27	第 13 回 H24.2.18-2.26	
2 級 2 次 試験	受験者数	211	202	173	165	99	76	88	3053
	合格者数	66	74	135	109	77	48	57	1083
	合 格 率	31.28%	36.63%	78.03%	66.06%	77.78%	63.16%	64.77%	35.47%
1 級 試験	実 施 日					第 1 回 H22.1.15-1.25	第 2 回 H23.1.14-1.24	第 3 回 H24.1.20-1.30	
	受験者数					153	76	46	275
	合格者数					43	17	19	79
	合 格 率					28.10%	22.37%	41.30%	28.73%
	国内受験者合計	2109	1785	1471	1360	1221	1062	870	30775

中国 MIDI 検定 3 級試験の推移

級	内 容	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	累計
3 級 試験	実 施 日	第 2 回 H17.12.4	第 3 回 H18.12.3	第 4 回 H19.12.2	第 5 回 H20.12.7	第 6 回 H21.12.6	第 7 回 H22.12.5	第 8 回 H23.12.4	
	試験会場	北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都 (全国 7 会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都 青島 (全国 8 会場)	北京 瀋陽 杭州 無錫 成都 (全国 5 会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 無錫 成都 青島 (全国 7 会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 無錫 成都 青島 (全国 7 会場)	北京 上海 南京 杭州 広西 (全国 5 会場)	北京 上海 南京 杭州 瀋陽 青島 (全国 6 会場)	
	受験者数	252	144	128	119	103	177	242	1277
	合格者数	223	129	123	94	89	103	229	1077
	合 格 率	88.49%	89.58%	96.09%	78.99%	86.41%	58.19%	94.63%	84.34%

改正RoHSセミナー開催報告

製品安全・環境委員会 委員長 戸田 耕二

製品安全・環境委員会 環境問題研究部会では、世界的な製品に係る環境関連規制の強化の潮流に対応し、情報交換等を行ってきました。

環境関連規制強化の大きなインパクトであったEUのRoHS指令には、2006年の施行以降、製品メーカは苦勞して対応してきたところですが、昨年7月に改正が告示され、2013年1月より施行されることになりました。

今回の改正では対象製品の大幅な拡大によりほとんどの電気使用製品が対象となるとともに、従来EMC指令等で要求されていたCEマーキングがRoHS指令においても要求されるようになります。

本来、実施にあたり具体的な対応方法の基準やFAQが同時に当局より公表されるべきところですが、EU関連当局でのそれらの作成作業が遅延しており、具体的対応の仕方はいまだ不明確です。しかし、それらを待って対応するのは2013年には間に合いません。

このような状況の中でわれわれ音楽電子機器メーカは、どのように改正RoHS指令へ対応して行けば良いかをご指導いただくべく、EU環境関連法規制に詳しい産業環境管理協会の松浦様にご講演いただきました。

AMEI環境問題研究部会セミナー

タイトル：＜EU RoHS (II) 指令の解釈とCEマーキング対応＞

日 時：平成24年2月17日（金） 14：30～16：30

場 所：浜松市 アクトシティ浜松研修交流センター 62研修室

講演には72名という多数の参加者があり、熱心に聴講していました。

講演内容は、原則的なことでは、文化の違いから来る日本とEUの法規制における基本的考え方の違いの説明や、指令前文に理念が記載されており重要であることなどのから、自社での自主的な判断を行っていく必要が有ること、その際自社として「相当な注意を払ってあらゆる適正措置を取る」「当然実施すべき活動を遂行した」(Due Diligence) ということを自社の定義において明確化すること、技術文書等でのデータとそれを判定したロジックが第三者にも明確であることが要求されるなどの説明がありました。

その他、解説の中では事前にお願ひした具体的質問にも丁寧にお答えいただきました。

講演終了後に、企業ごとに個別の課題を相談する時間を取ったので、じっくりと相談してアドバイスをいただき充実したセミナーとなったことと思います。

製品安全・環境委員会では、これからも会員各社の共通する課題についてセミナー等を開催し、各社対応の一助としていきたいと考えています。



戸田 製品安全・環境委員会委員長 挨拶



改正RoHSセミナー風景



講演終了後、産業環境管理協会の松浦様による個別相談

一般社団法人への移行報告

一般社団法人への移行に関する経過報告及び移行認可を受けた後の手続き

2009年10月6日運営委員会（袴俊雄委員長）にて、公益法人制度改革へのAMEIとしての対応を研究するWGをスタートし、公益目的事業の検証、定款変更についての検討を実施、2010年5月13日の第14回通常総会に於いて一般社団法人への移行を決定。

2011年5月11日の第15回通常総会に於いて定款の変更案・公益目的支出計画案について承認を頂き、2011年8月電子申請を開始し、内閣府と申請内容についての検討・修正等を経て10月28日公益認定等委員会より認可相当であるとの答申がされました。

この時点で2012年4月1日（日）の登記が可能との内閣府の提案を受け、2012年3月21日付けで内閣総理大臣名で一般社団法人としての認可書を受領した後、2012年4月1日に登記申請・4月11日に登記完了書類を受領し、4月12日に内閣府へ登記事項証明書を提出いたしました。

これをもって当協会は、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づき「一般社団法人音楽電子事業協会」へと名称を変更いたしました。

来る5月10日は一般社団法人としての第一回通常総会を迎えることとなります。

名称変更後も音楽電子事業の振興に寄与すべく活発な事業活動を継続してまいりますので会員の皆様には於かれましては、引き続き委員会活動への積極的な参加をお願い申し上げます。

尚、2012年4月1日以降、3ヶ月以内に公益目的財産額の確定に係る必要書類を内閣府へ提出し、公益目的支出計画の実施の完了の確認を受けるまでの間、各事業年度ごとに、公益目的支出計画実施報告書を作成し内閣府へ提出しなければならないこととされています。

著作権・ソフト委員会報告

著作権・ソフト委員会 委員長 戸叶 司武郎

平成23年10月以降の著作権・ソフト委員会の活動についてご報告致します。23年度後期も各部会は活発な活動を続け、公式な会議だけでも約40回（年間合計で79回）開催されたため、残念ながらすべてをご紹介できませんので主要な案件についてご報告いたします。

1. 著作権等管理事業法の規制に対する意見を文化庁に提出

著作権等管理事業法は施行後10年が経過し、文化庁は「著作権等管理事業法に関連する規制への意見」いわゆるパブリックコメントを広く募集しました。AMEIではカラオケ部会、音楽配信部会を中心に次の3点、「使用料規程の届出（第13条第1項前段）関係」、「登録事項の変更の請求（第7条1項）」、「著作権等管理事業の登録（第3条）関係」についての意見を検討、作成し23年10月11日に同庁に提出致しました。意見の全文をAMEIホームページinformationに掲載していますのでご参照下さい。

また、管理事業に新規参入を計画しているICA社とNMRCとの管理事業登録事前協議にAMEIも参画し、同社の使用料規程の矛盾点を前向きに指摘しました。協議義務を持たない同社ですが将来使用料規程を改訂する際には必ず利用者代表と事前協議することを約束しました。

2. 「スマホでも音楽」キャンペーン

日本の携帯電話市場ではフィーチャーフォンからスマートフォンへのシフトが大きく進展しています。そうした中、特にAndroid OS端末においてユーザビリティの変化や、フィーチャーフォンで購入した音楽コンテンツをスマートフォンに引継ぎが出来ないことで、優良ユーザーの不満が増大し違法にダウンロード（以下DL）する行為が蔓延する事態が懸念されます。

このような状況に対し、JASRAC、JRC、イーライセンスそしてRIAJにより標記キャンペーンの実施に関する説明会が平成23年11月22日にJASRACにおいて開催されました。ユーザーがフィーチャーフォンで利用していたコンテンツプロバイダ（以下CP）の着うたサービスなどを、同じCPの運営するスマートフォン向けサービスに移る場合、過去にDL購入した音楽コンテンツをスマートフォンでも利用できます。既に一部のCPではキャンペーンに対応しており、スマートフォン市場における健全な音楽配信ビジネスが拡大・発展していくことを期待しています。

3. JASRACとの使用料規程改定協議始まる

平成23年11月18日のNMRCとJASRACの協議において、JASRACより、クラウドに代表されるネットワーク環境の変化に伴いJASRAC使用料規程第11節インタラクティブ配信の「主として音楽の規定」の改定を行いたいとして、「インタラクティブ配信規程改定の骨子」が提示されました。この骨子はクラウドからストリーミング、サブスクリプションの見直し、ユーザーアップロード型（UGM）サイトにいたるまで広範な対象となっています。

NMRCでは、規程改定の内容の協議に入る前の段階として、UGMサイトの違法DL問題や海外大手配信事業者との協議のあり

方等についての意見をまとめた上、平成24年1月17日、3月1日にJASRACと協議の場を持ちました。この2回の協議において、JASRAC/NMRCとの共通認識が得られましたので、今後規定の内容についての協議が開始されます。

協議開始にあたっては、前回提示された「規程改定の骨子」を更に詳細につめたものをJASRACより提示を受けることになっています。

4. JRC、ELIとの協議について

株式会社ジャパン・ライツ・クリアランス（以下、社名をJRCと略称で記載）とは、23年11月18日の最低使用料協議で暫定合意に至りました。既に株式会社イーライセンス（以下、社名をELIと略称で記載）とは昨22年度に最低使用料の金額読み替えについての暫定合意し、過払い分の返金・相殺をELIからCP各社に手続中です。JRCは最低使用料を規程化した後も徴収を留保してくれた為、CPは返金受入れや相殺の経理処理は不要で、過去精算分はJRCからCP各社に対し24年5月頃をめどに請求する予定です。最低使用料に関する矛盾点と問題点はJASRACを筆頭に各管理事業者と協議を継続していきます。協議にあたりAMEI会員各位には、貴重なマーケット情報をNMRCにご提供下さり、感謝申し上げます。

またJRCとNMRCは先進音楽配信サービスに関する調査検討を継続致しました。JRCからSpotifyなどのEUや米国で成長中のサービスの詳細を、AMEI会員企業からは先端技術の紹介をし、使用料だけでなく音楽ビジネスの将来を見通す情報の共有を進めました。なお、荒川社長にはAMEIと早稲田大学理工学部との連携講座にゲスト講師として12月に講義をして戴きました。

5. スマートホン許諾単位の見直しについて

スマートホン向け音楽配信サービスの許諾単位の考え方が各管理事業者や担当者によって異なる事態が頻発しています。CPが提供する1つのサービスが、内容によって複数の許諾に切り分けられることは極力回避したいことですが、その切り分け方が管理事業者毎に異なるようでは許諾管理と実績報告実務が破綻しかねません。さらに、音楽電子出版部会の研究調査ではkindle fire等の電子書籍リーダーがマルチメディア端末に進化しており、今後様々な新しいOS等が増えてプラットフォームの複雑化が懸念されます。NMRC実務WGでは、CP各社の許諾受け状況、望ましい許諾体系をアンケートし、その集計結果を基に管理事業者各社と協議を開始致しました。

上記報告以外にも、カラオケ部会、ソフト規格部会、音楽電子出版部会、透かし推進プロジェクトから機能を引き継いだDRM部会、またCCD（デジタル時代の著作権協議会）への参画やCDC（著作権情報集中処理機構）との連携など様々な活動を展開致しました。今期も先期と同じく盛りだくさんの著作権・ソフト委員会ですが、会員各位の積極的なご参加をお待ちしております。

この度の東日本大震災により被災された方々に、
心よりお見舞い申し上げます。
被災地の日も早い復興をお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2012年4月25日現在

あ

- Apple Japan合同会社

い

- 株式会社インターネット
- インフォコム株式会社

え

- 株式会社エクシング
- 株式会社エムティーアイ
- 株式会社エンターブレイン

お

- 株式会社音響総合研究所

か

- カシオ計算機株式会社
- 株式会社河合楽器製作所

き

- 株式会社キューブ

く

- クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
- クリムゾンテクノロジー株式会社

こ

- 株式会社コルグ

さ

- 株式会社サイバード
- 株式会社サミーネットワークス

し

- 株式会社シーミュージック
- JVCネットワークス株式会社

- 島村楽器株式会社

- 学校法人尚美学園

- 株式会社シンクパワー

す

- 株式会社ズーム
- 株式会社鈴木楽器製作所
- 株式会社スリック

せ

- セイコーインスツル株式会社
- 株式会社セガ

た

- 株式会社第一興商
- 株式会社タムラ製作所

て

- ティアック株式会社
- 株式会社ディーアンドエムホールディングス

と

- 東映ビデオ株式会社
- 株式会社トワゴ

に

- 学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・
日本工学院八王子専門学校

- 日本シンセサイザープログラマー協会

は

- パイオニア株式会社
- パナソニック モバイル コミュニケーションズ
株式会社

ふ

- 株式会社フェイス
- 株式会社フェイス・ワンダワークス
- 株式会社フットレック

へ

- ベスタクス株式会社

み

- ミュージックノート株式会社

や

- ヤマハ株式会社
- 一般財団法人ヤマハ音楽振興会
- 株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

- 株式会社ラグナヒルズ

り

- 株式会社リットーミュージック
- 株式会社リムショット

ろ

- ローランド株式会社
- 〈正会員会社47社〉

*賛助会員

- 中音公司（中華人民共和国）
- 株式会社博秀工芸
- 株式会社ミュージックトレード社
- 〈賛助会員会社3社〉

一般社団法人音楽電子事業協会

第1回通常総会と懇親会開催のお知らせ

日 時：平成24年5月10日（木） 午後4時～
場 所：ホテルメトロポリタンエドモント 2階「万里」
◇平成23年度 事業報告 収支決算報告
◇平成24年度 事業計画(案) 収支予算(案)
◇役員選任の件 ◇公益法人制度改革について

通常総会懇親会：ホテルメトロポリタンエドモント 1階「クリスタルホール」
午後6時～（多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております）

AMEI NEWS Vol.47 / 2012.4.25
社団法人音楽電子事業協会 機関誌
発 行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549
発行人：岩崎修三
編集人：石黒士郎（広報委員会）
編集協力：株式会社 博秀工芸
ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>